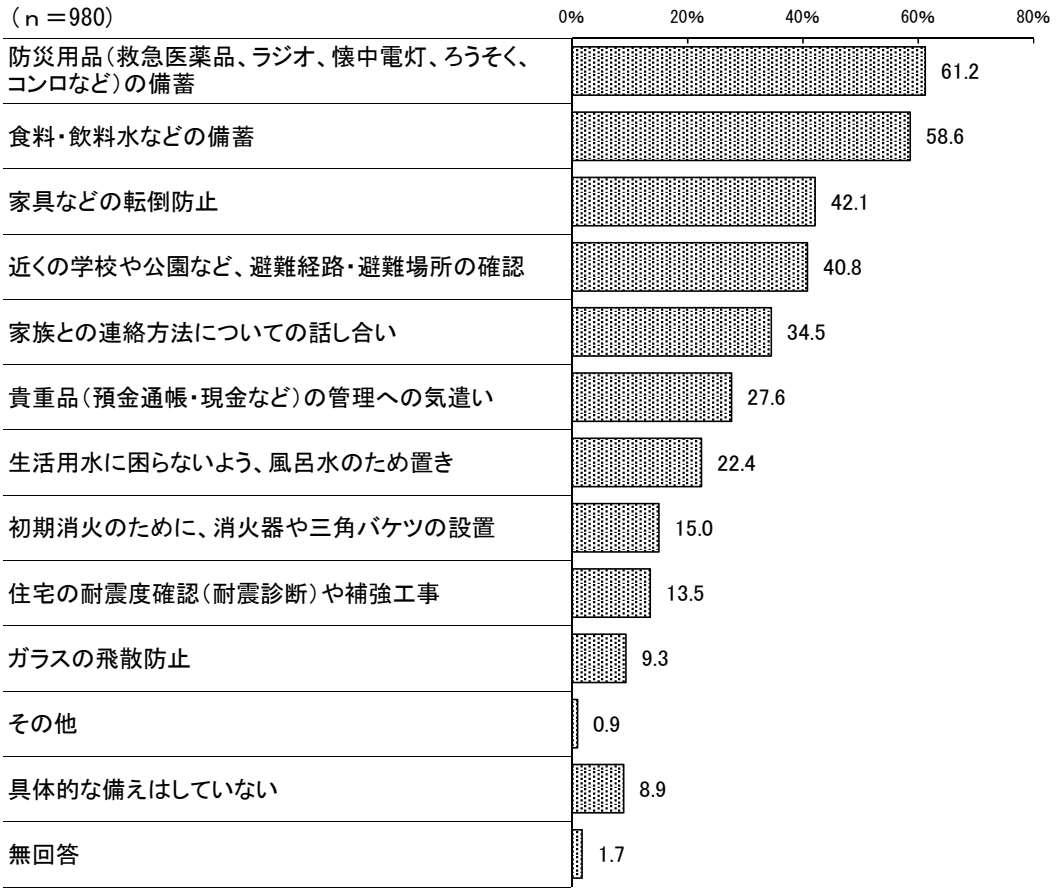
２ 防災について

（１）大地震発生時のための日頃の備え

◇「防災用品の備蓄」、「食料・飲料水などの備蓄」がそれぞれ６割

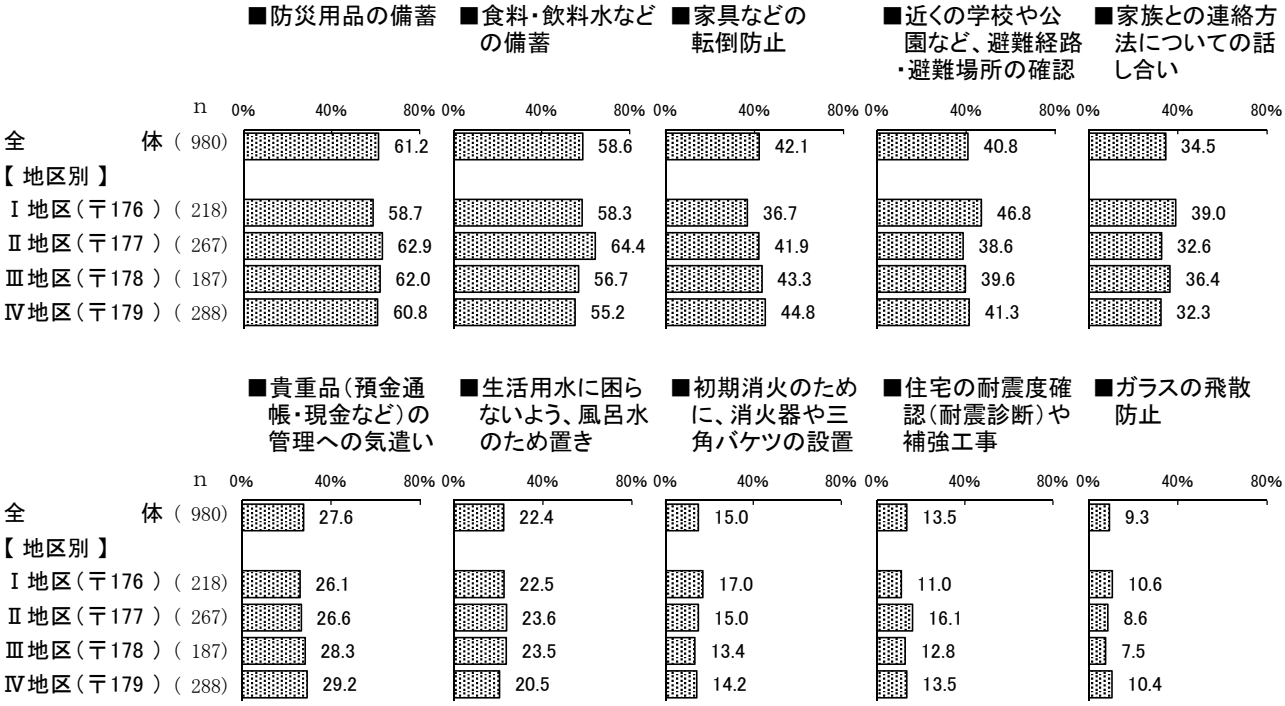
問15　大地震が起こったときのために、日頃からしている備えをお答えください。
（○はいくつでも）

図２－１－１　大地震発生時のための日頃の備え



大地震発生時のための日頃の備えを聞いたところ、「防災用品（救急医薬品、ラジオ、懐中電灯、ろうそく、コンロなど）の備蓄」（61.2%）が６割を超えて最も多く、次いで「食料・飲料水などの備蓄」（58.6%）、「家具などの転倒防止」（42.1%）、「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」（40.8%）、「家族との連絡方法についての話し合い」（34.5%）などの順となっている。（図２－１－１）

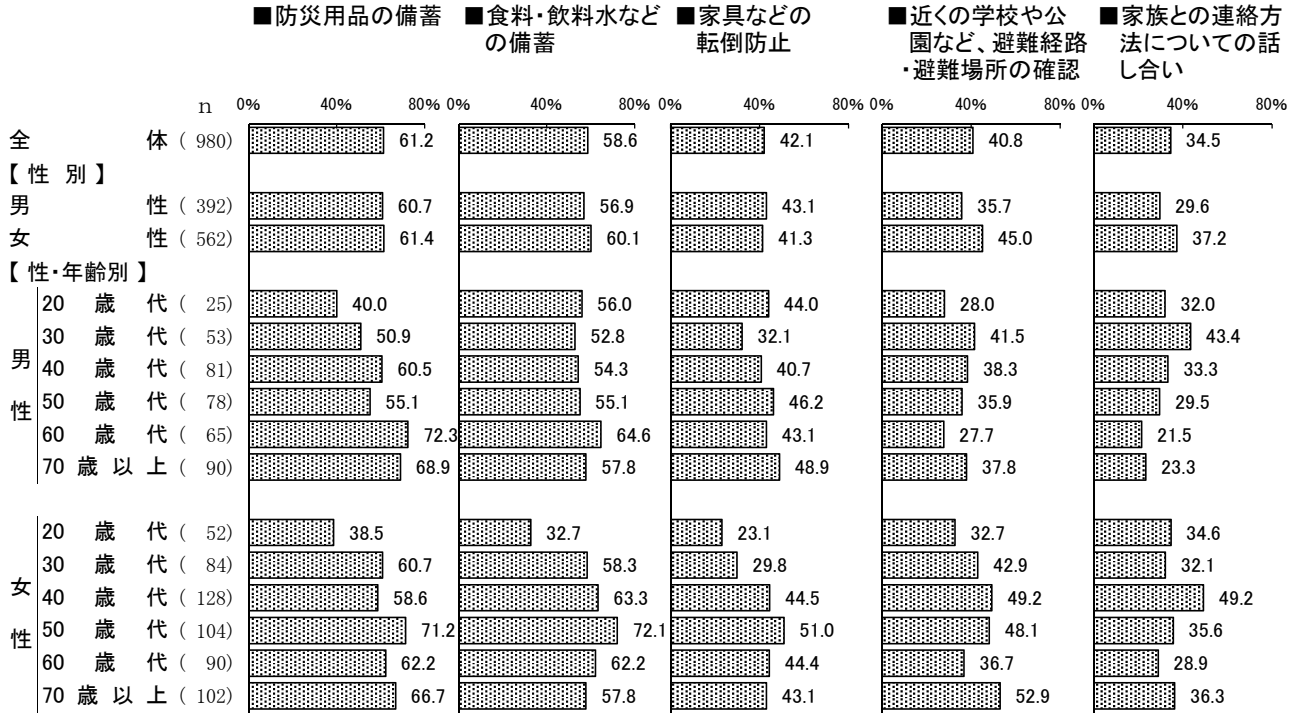
図２－１－２　大地震発生時のための日頃の備え（上位10位）－地区別

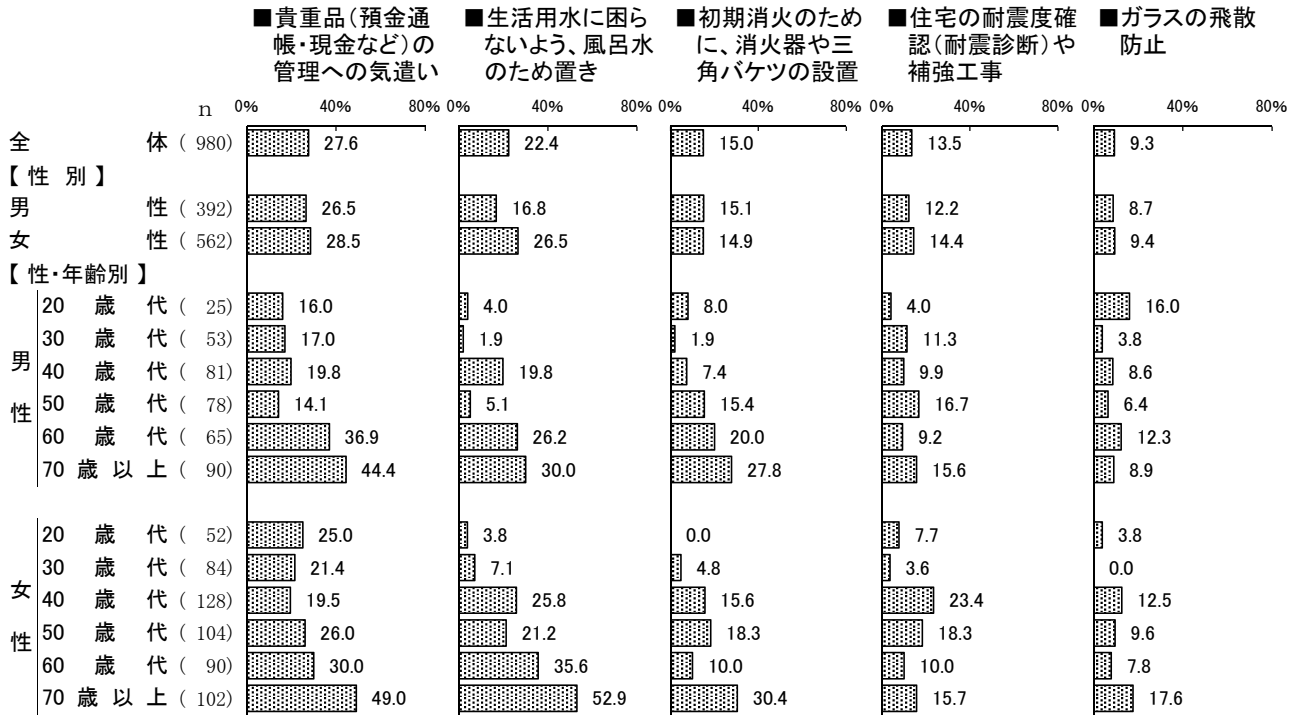


地区別にみると、「食料・飲料水などの備蓄」はⅡ地区（〒177）が６割半ばと多くなっている。「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」、「家族との連絡方法についての話し合い」はⅠ地区（〒176）がそれぞれ４割半ば、ほぼ４割と多くなっている。

（図２－１－２）

図２－１－３　大地震発生時のための日頃の備え（上位10位）－性別／性・年齢別

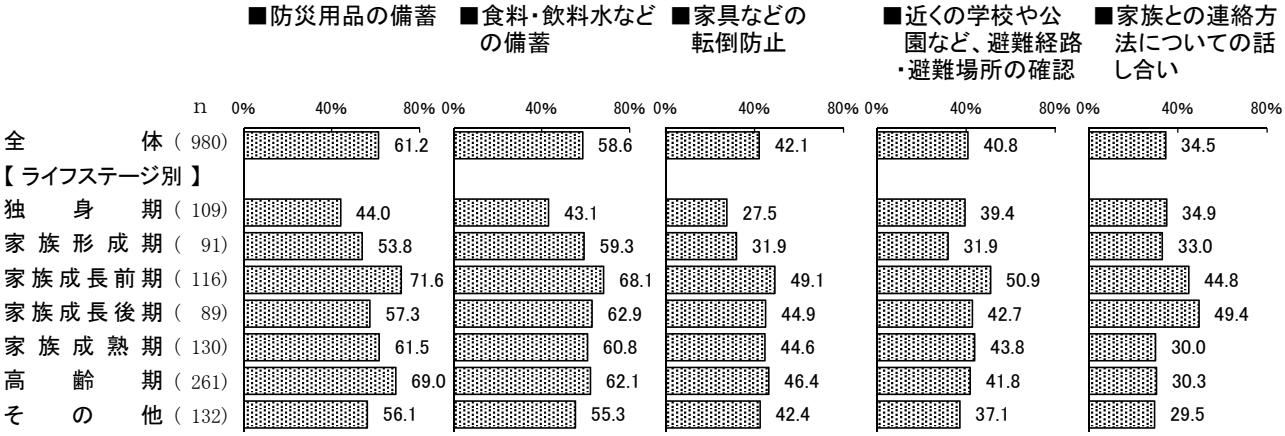


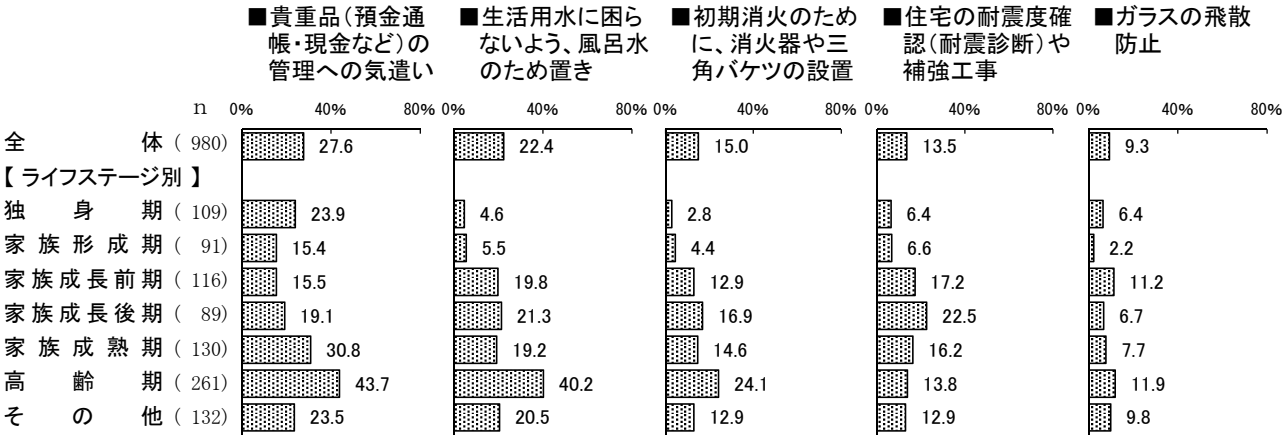


性別にみると、女性の方が「生活用水に困らないよう、風呂水のため置き」が9.7ポイント、「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」が9.3ポイント、「家族との連絡方法についての話し合い」が7.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「防災用品の備蓄」、「貴重品（預金通帳・現金など）の管理への気遣い」、「生活用水に困らないよう、風呂水のため置き」、「初期消火のために、消火器や三角バケツの設置」などは男女ともに高い年代ほど多い傾向となっている。「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」は女性70歳以上で５割を超え、男性30歳代、女性30歳から50歳代で４割台、「家族との連絡方法についての話し合い」は男性30歳代、女性40歳代で４割台と多くなっている。（図２－１－３）

図２－１－４　大地震発生時のための日頃の備え（上位10位）－ライフステージ別





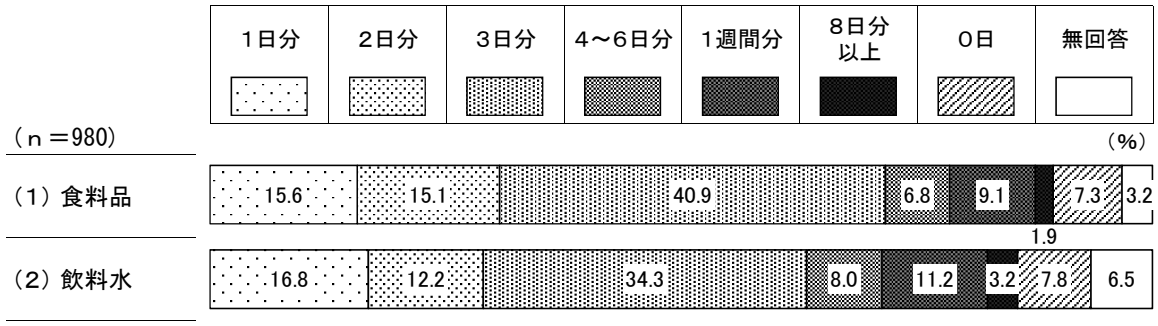
ライフステージ別にみると、「防災用品の備蓄」は家族成長前期、高齢期でほぼ７割と多くなっている。「食料・飲料水などの備蓄」、「家具などの転倒防止」、「近くの学校や公園など、避難経路・避難場所の確認」、「家族との連絡方法についての話し合い」は家族成長前期（あるいは後期）で多く、家族成長後期、家族成熟期、高齢期とステージが上がるにつれて少なくなる傾向となっている。一方、「貴重品（預金通帳・現金など）の管理への気遣い」、「生活用水に困らないよう、風呂水のため置き」などは高齢期になるほど多くなる傾向となっている。（図２－１－４）

（２）大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数

◇３日分までの計で食料品は７割、飲料水は６割

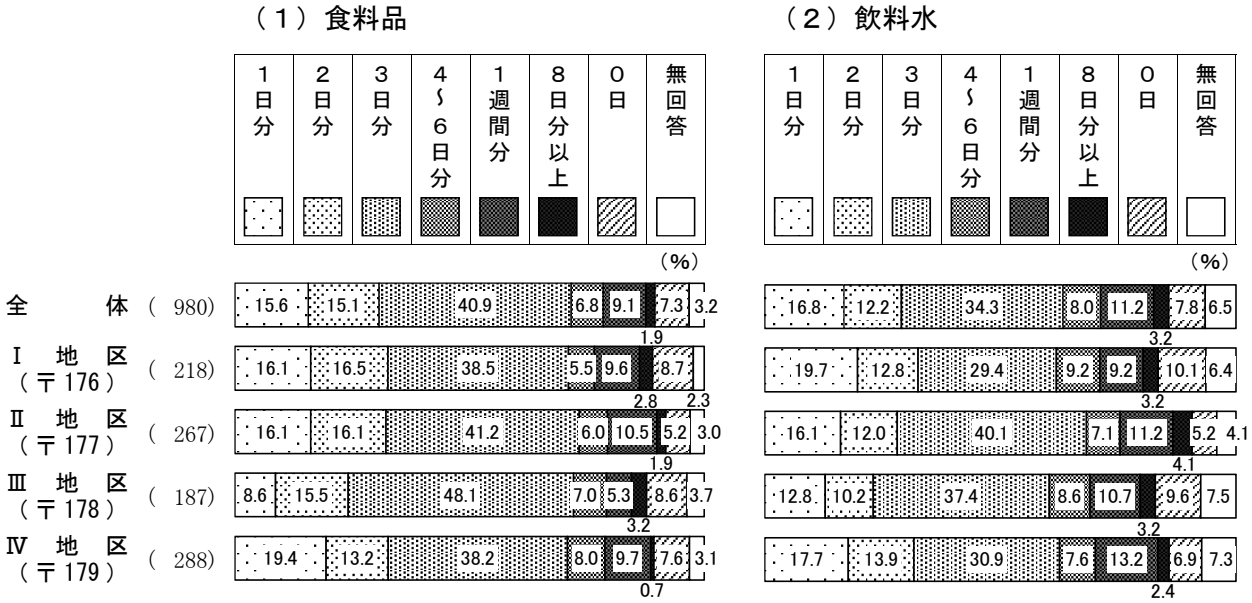
問16　食料・飲料水などの備えについておうかがいします。
いま家庭にある食料や飲料水で、大地震の発生時に非常持ち出し用を含めて
家族の何日分の食生活をまかなえますか。

図２－２－１　大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数



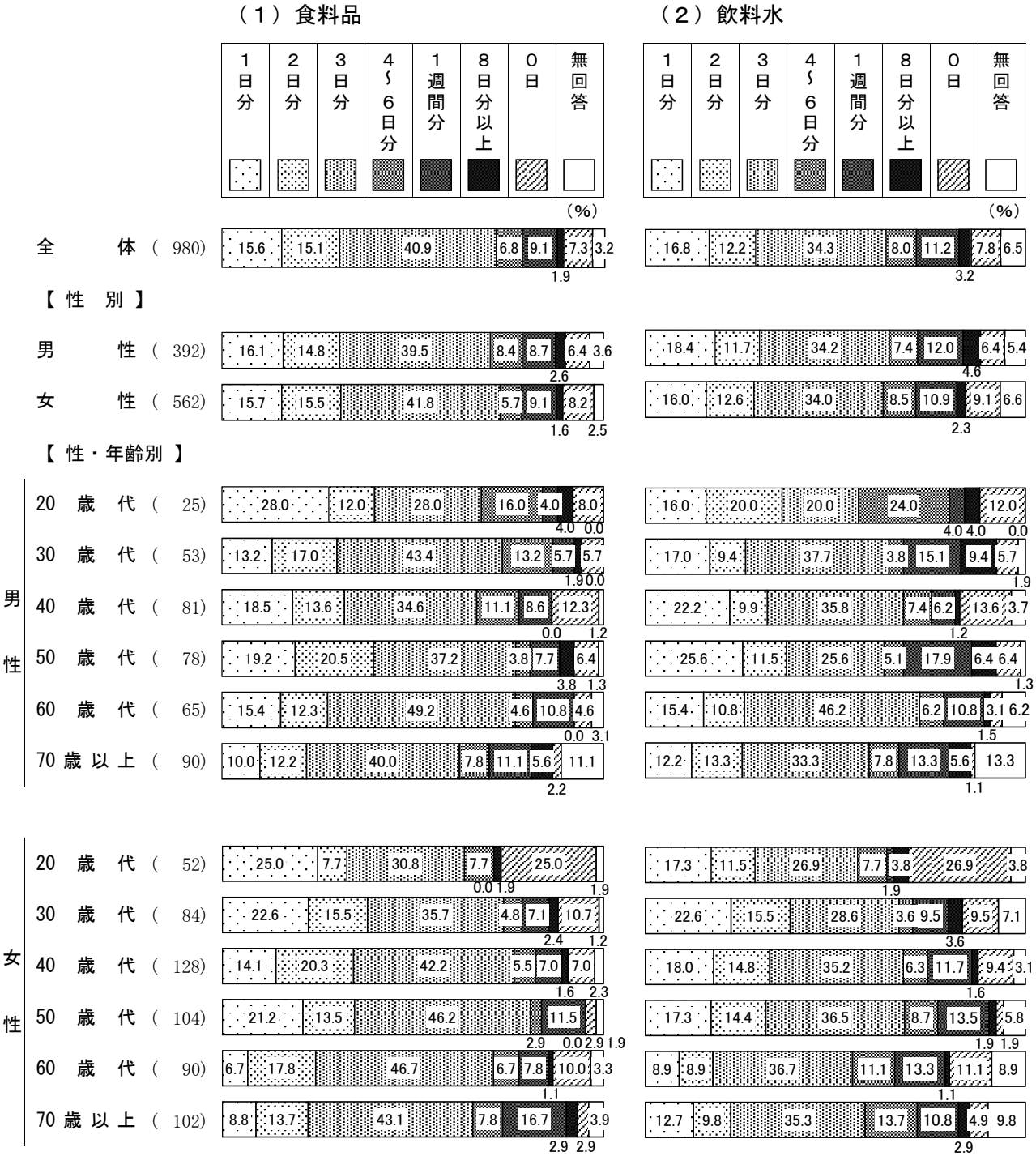
大地震発生時の家族の食生活をまかなえる日数をたずねたところ、「３日分」が（１）食料品（40.9%）でほぼ４割、（２）飲料水（34.3%）で３割半ばとそれぞれ最も多くなっている。ともに次いで「１日分」、「２日分」の順となっており、３日分までの計で食料品は７割ほど、飲料水は６割ほどとなっている。（図２－２－１）

図２－２－２　大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数－地区別



地区別にみると、（１）食料品は、すべての地区で３日分までの計が７割を超えている。
（２）飲料水は、３日分までの計がⅡ地区（〒177）で７割近くと多くなっている。
（図２－２－２）

図２－２－３　大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数－性別／性・年齢別



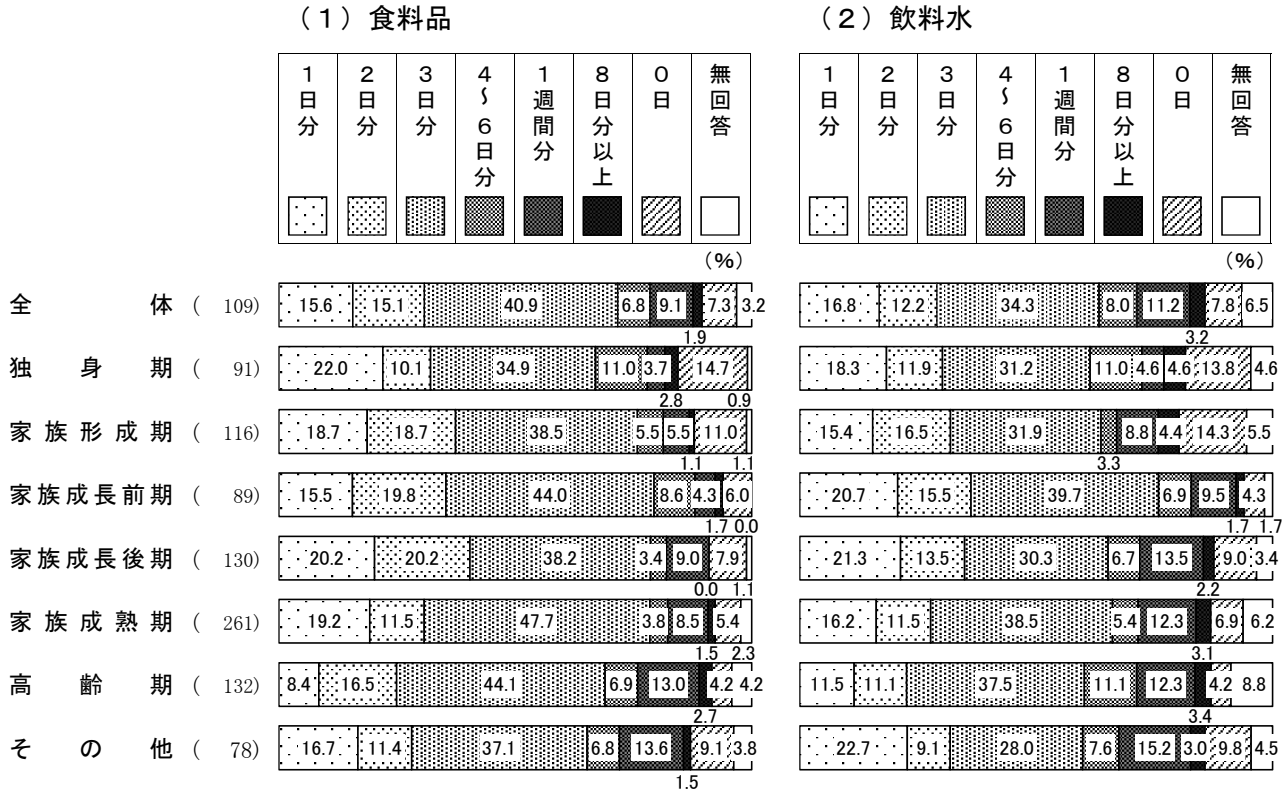
（１）食料品について性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、男性50歳代、60歳代、女性40歳代、50歳代で３日分までの計が８割近くと多くなっている。一方、「０日」は女性20歳代で２割半ばとなっている。（図２－２－３）

（２）飲料について性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、男性60歳代、女性40歳代、50歳代で３日分までの計が７割近くと多くなっている。「０日」は女性20歳代で２割半ばとなっており、（１）食料品と同様の傾向となっている。（図２－２－３）

図２－２－４　大地震発生時に家族の食生活をまかなえる日数－ライフステージ別



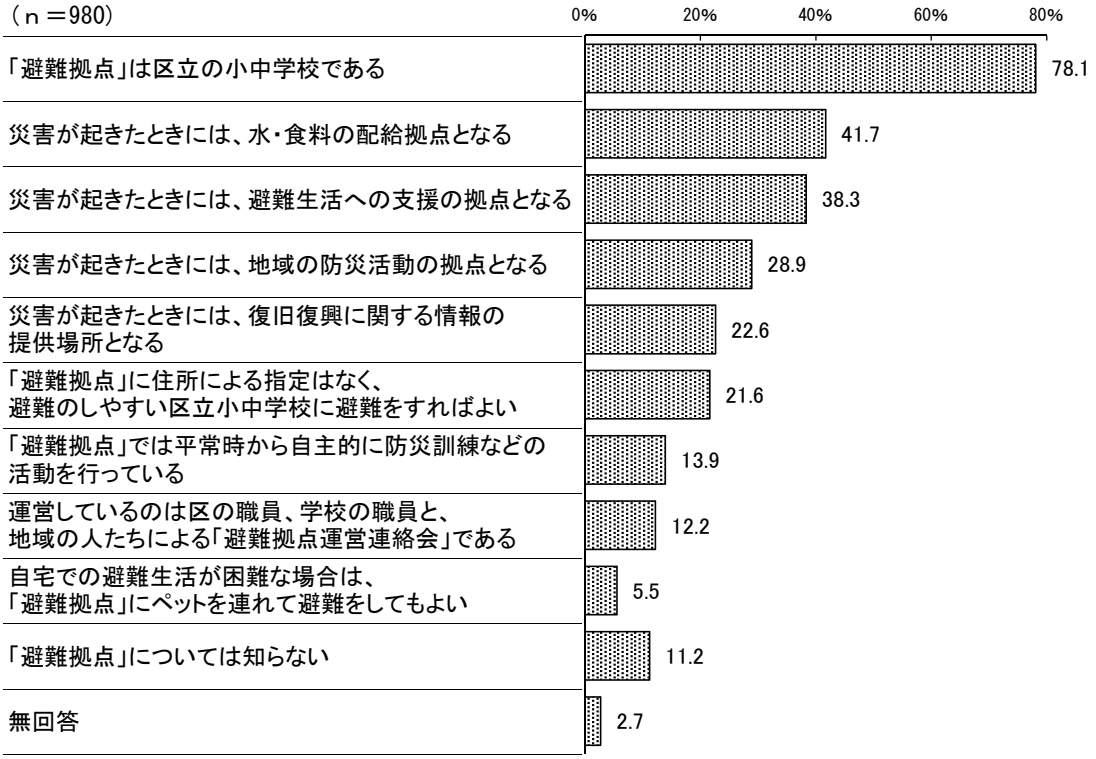
ライフステージ別にみると、（１）食料品、（２）飲料水ともに家族成長前期で１日以上まかなえる割合が最も多くなっている。家族成長後期、家族成熟期、高齢期とステージが上がるにつれてまかなえる割合が少なくなる傾向となっている。「０日」の割合は、独身期、家族形成期、その他で１割から１割半ばとなっている。（図２－２－４）

（３）「避難拠点」についての認知内容

◇「『避難拠点』は区立の小中学校である」が８割近く

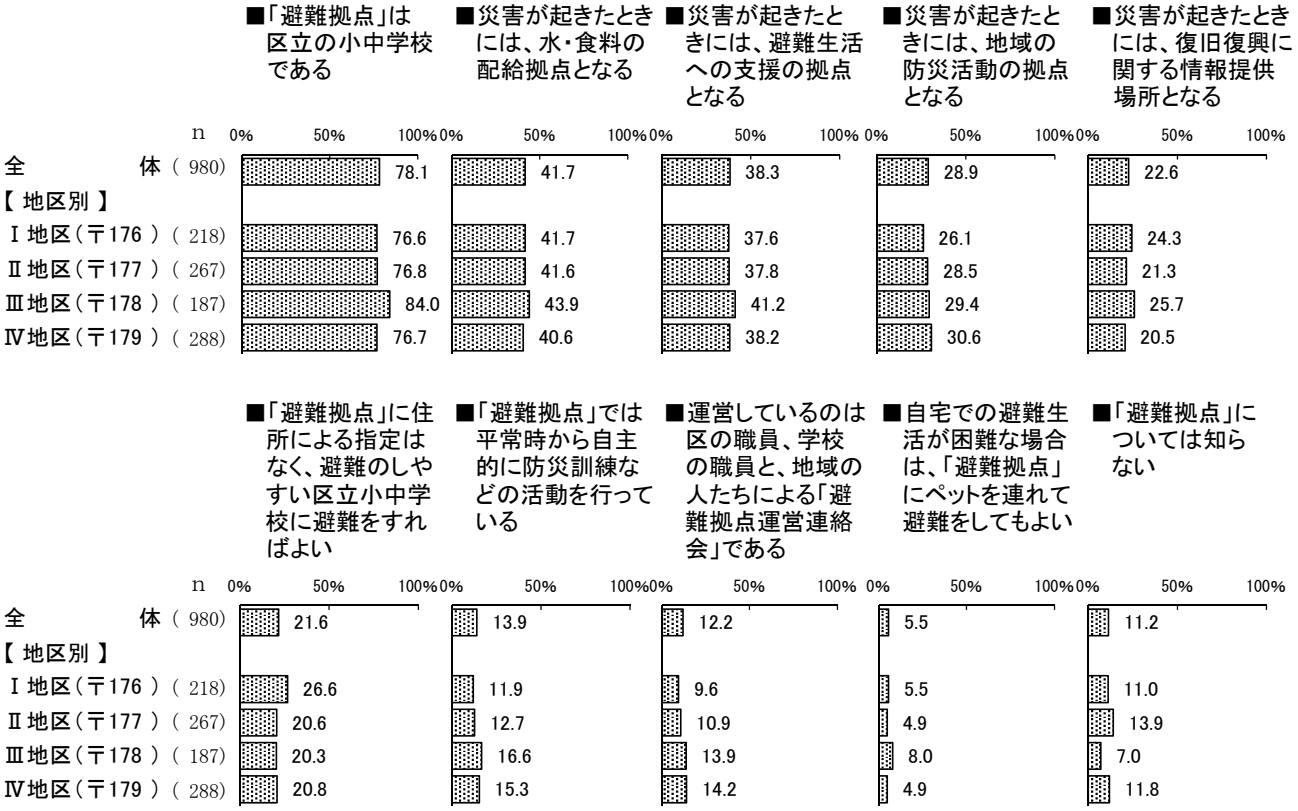
問17　区では、区立小中学校を大地震時の「避難拠点」として位置づけ、自宅が被害を受けたときの避難所であると同時に地域の防災拠点としています。この「避難拠点」について知っていることをあげてください。（○はいくつでも）

図２－３－１　「避難拠点」についての認知内容



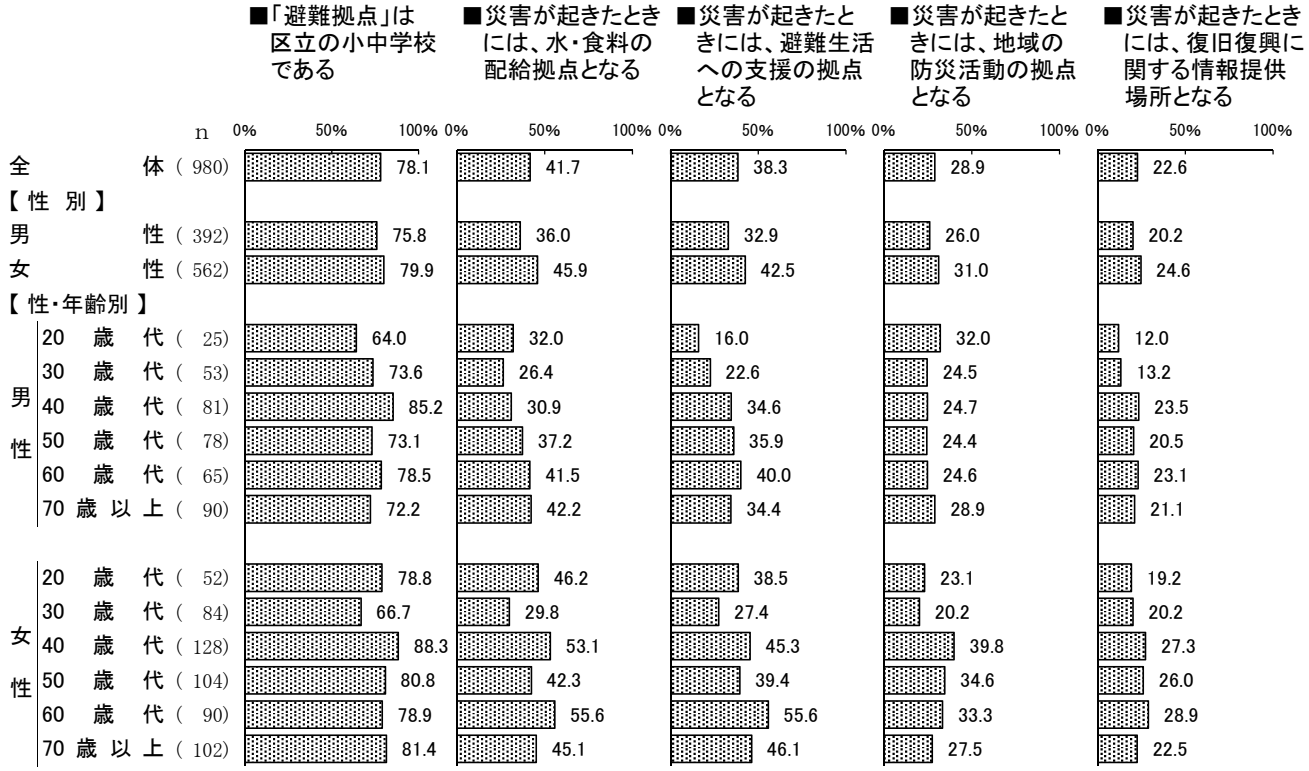
「避難拠点」についての認知内容をたずねたところ、「『避難拠点』は区立の小中学校である」（78.1%）が８割近くと最も多くなっている。次いで「災害が起きたときには、水・食料の配給拠点となる」（41.7%）、「災害が起きたときには、避難生活への支援の拠点となる」（38.3%）、「災害が起きたときには、地域の防災活動の拠点となる」（28.9%）などの順となっている。（図２－３－１）

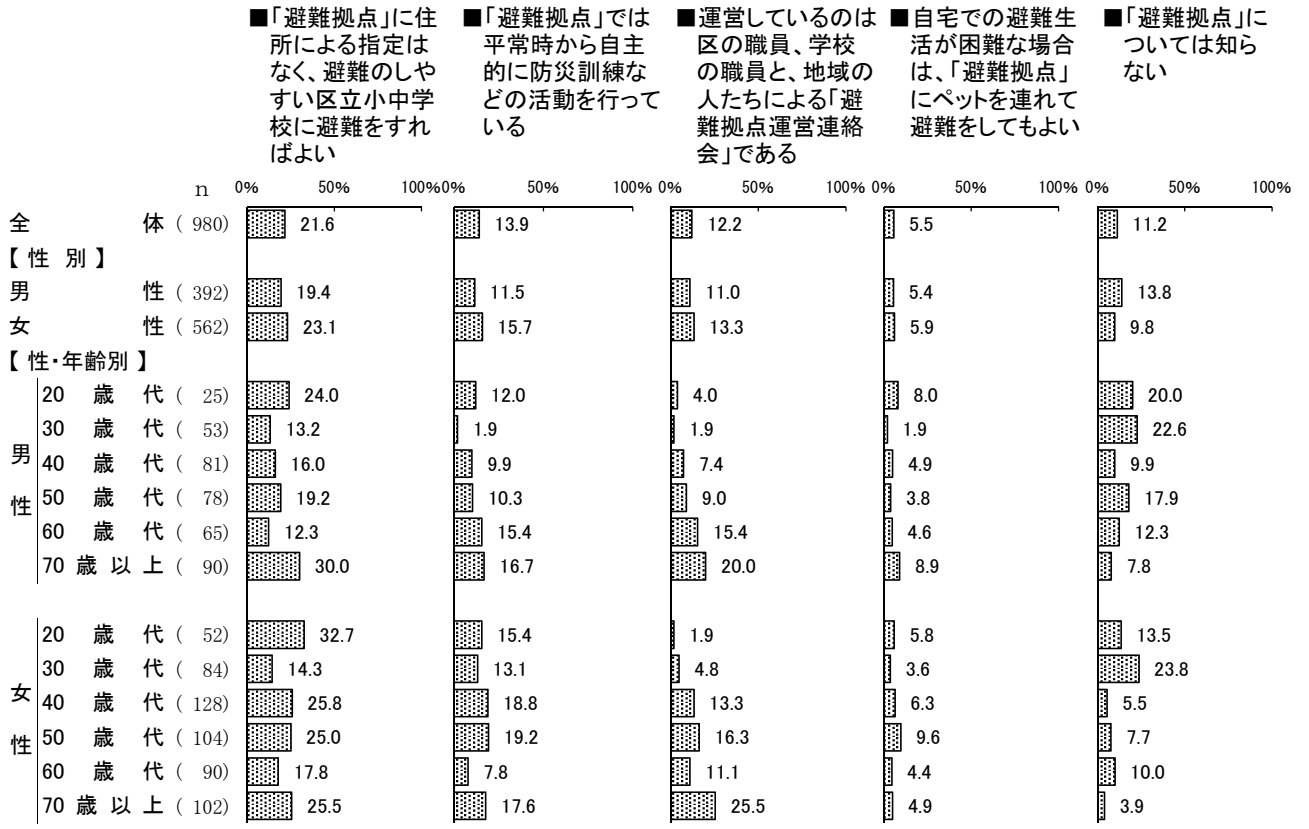
図２－３－２　「避難拠点」についての認知内容－地区別



地区別でみると、「『避難拠点』は区立の小中学校である」はⅢ地区（〒178）で８割半ばと多くなっている。「『避難拠点』に住所による指定はなく、避難しやすい区立小中学校に避難をすればよい」はⅠ地区（〒176）で２割半ばと多くなっている。（図２－３－２）

図２－３－３　「避難拠点」についての認知内容－性別／性・年齢別



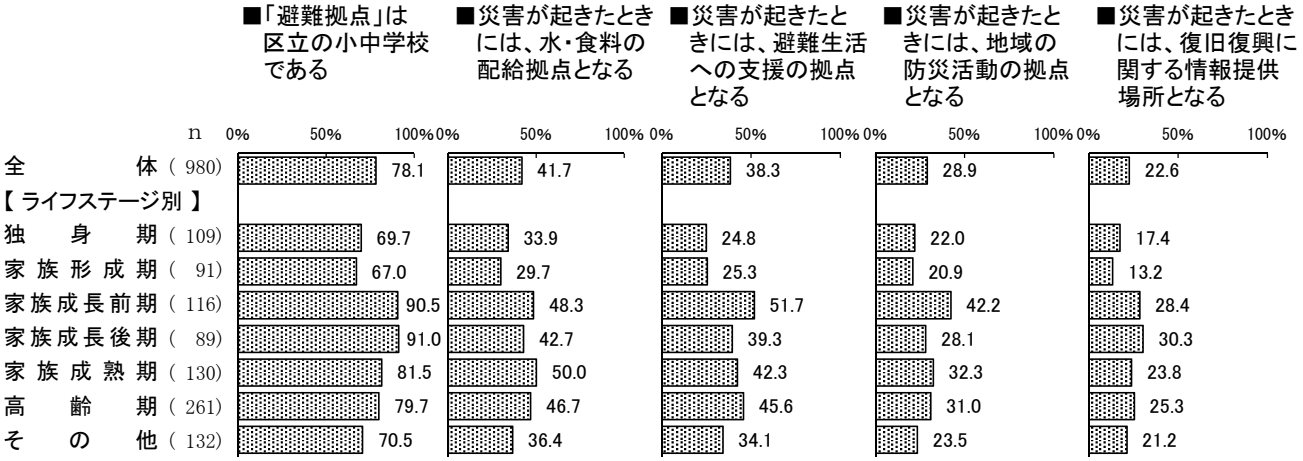


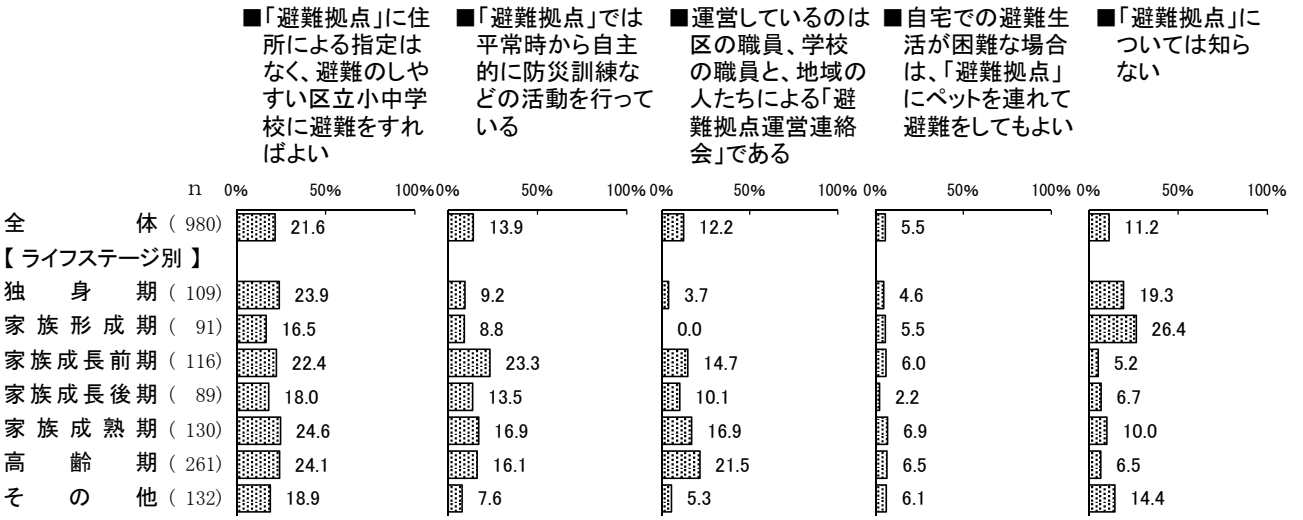
性別にみると、女性の方がいずれの項目も認知の割合が多くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともに30歳代で全般的に認知の割合が少なくなっている。

（図２－３－３）

図２－３－４　「避難拠点」についての認知内容－ライフステージ別





ライフステージ別では、家族成長前期は全般に認知の割合が多く、「『避難拠点』は区立の小中学校である」は家族成長前期や家族成長後期でほぼ９割と多く、ステージが上がるにつれて少なくなる傾向となっている。独身期、家族形成期は全般に認知の割合が少なくなっている。

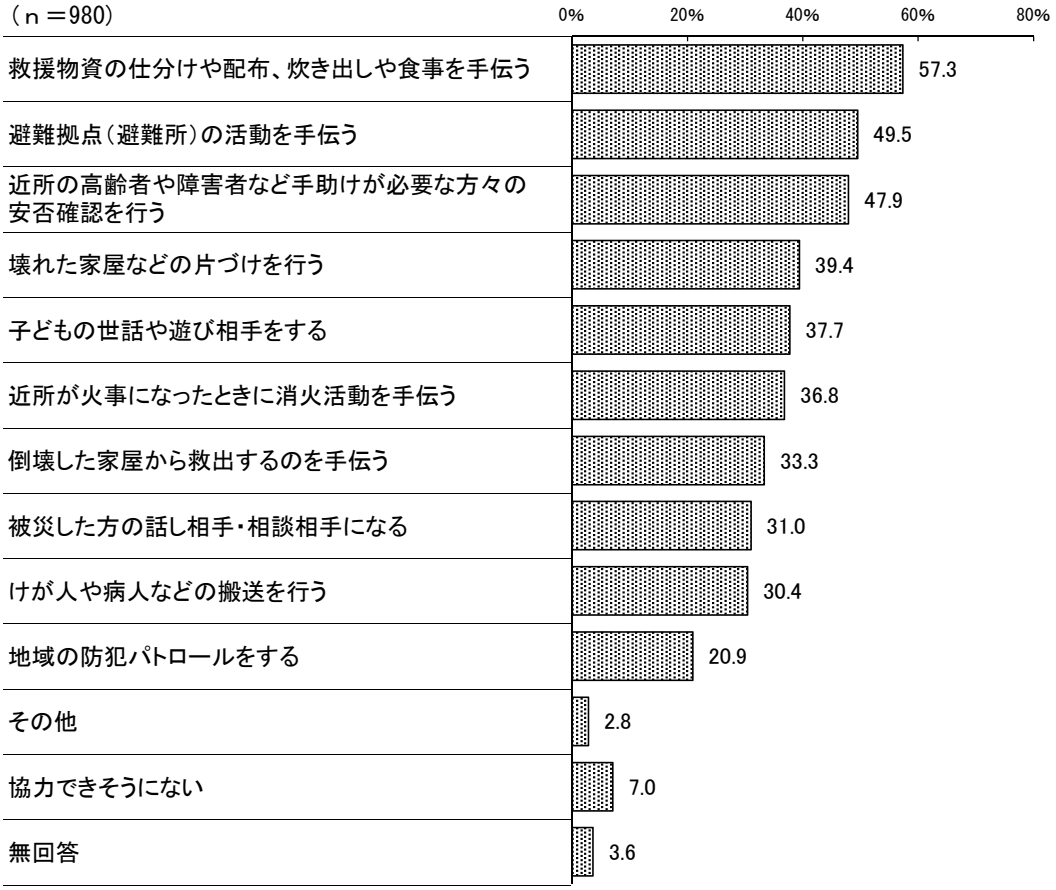
（図２－３－４）

（４）災害発生時に協力できる地域の防災活動

◇「救援物資の仕分けや配布、炊き出しや食事を手伝う」が６割近く

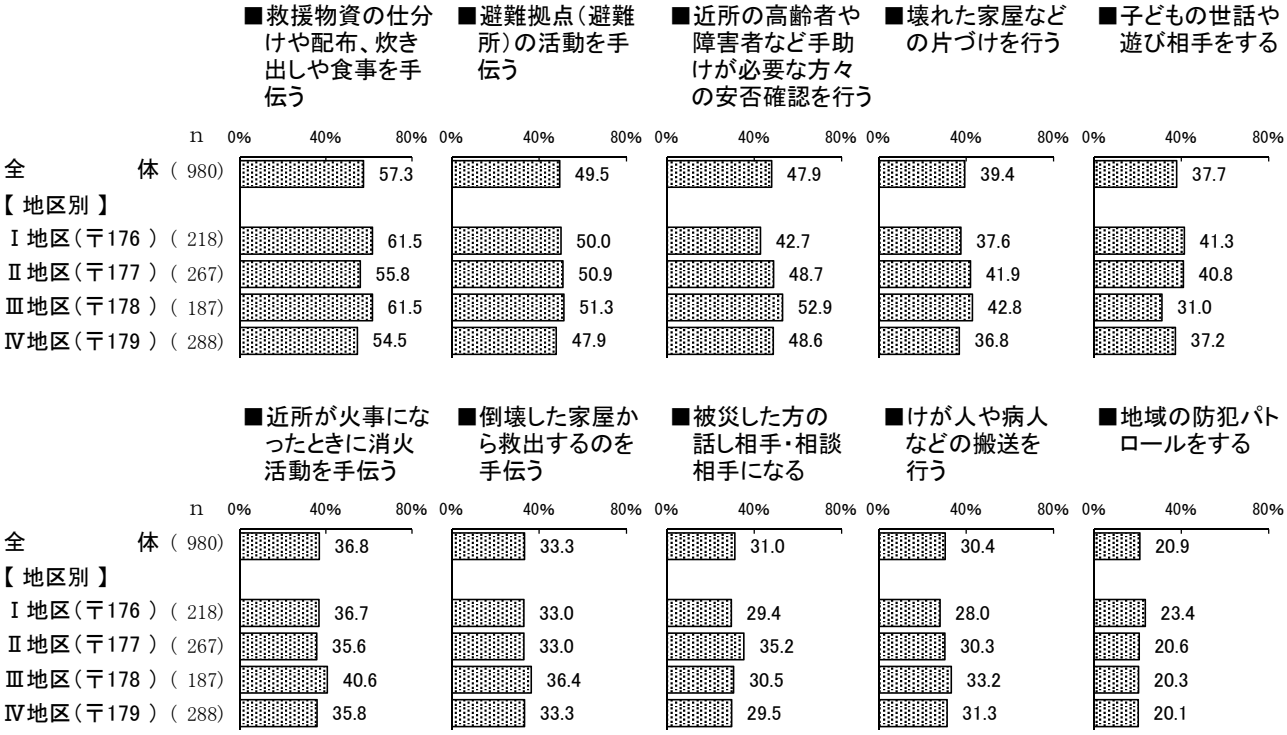
問18　災害が起きたとき地域の安全を守るためには、地域の皆さんが力を合わせることが必要です。災害が発生した場合、あなたが協力できる地域の防災活動をあげてください。（○はいくつでも）

図２－４－１　災害発生時に協力できる地域の防災活動



災害発生時に協力できる地域の防災活動をたずねたところ、「救援物資の仕分けや配布、炊き出しや食事を手伝う」（57.3%）が６割近くと最も多く、次いで「避難拠点（避難所）の活動を手伝う」（49.5%）、「近所の高齢者や障害者など手助けが必要な方々の安否確認を行う」（47.9%）、「壊れた家屋などの片づけを行う」（39.4%）、「子どもの世話や遊び相手をする」（37.7%）などの順となっている。（図２－４－１）

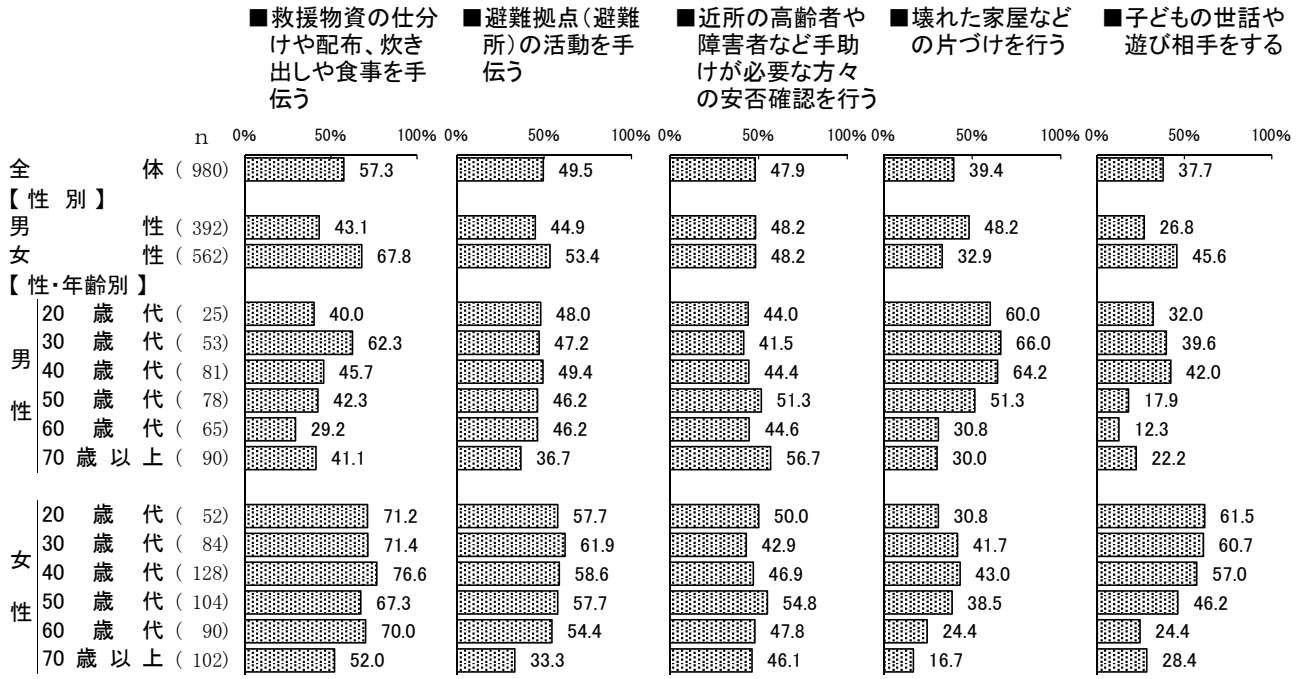
図２－４－２　災害発生時に協力できる地域の防災活動（上位10位）－地区別

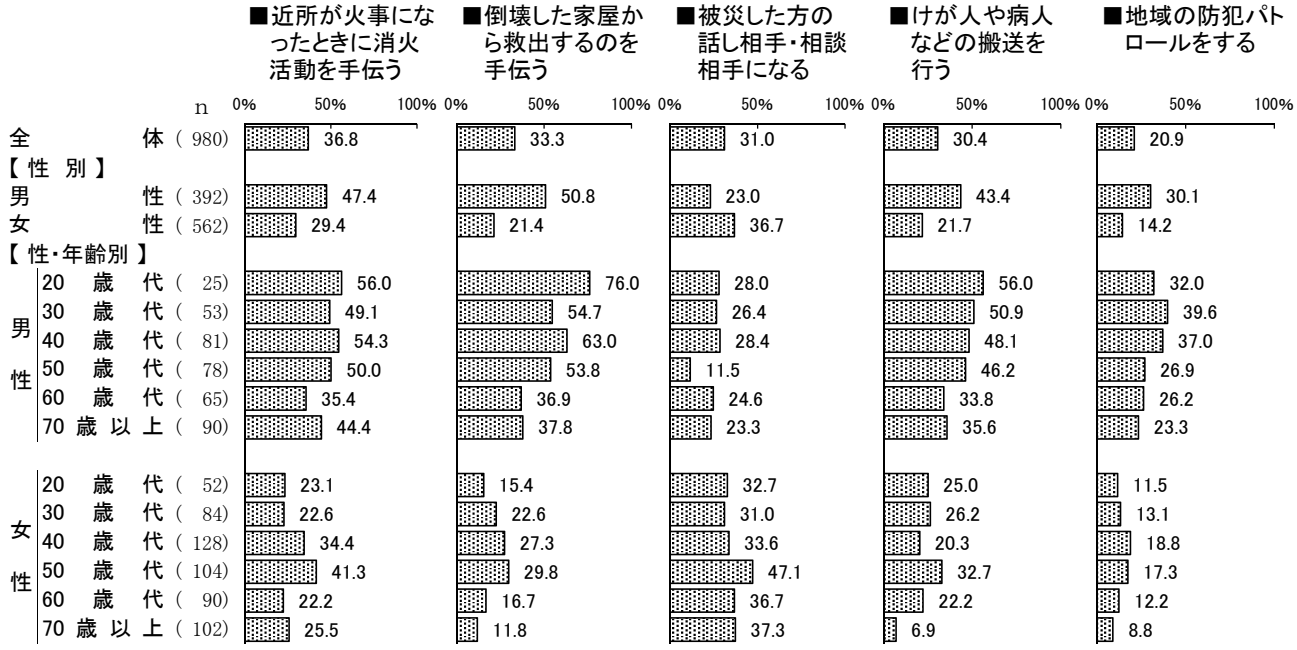


地区別にみると、大きな傾向の違いはみられないが、「救援物資の仕分けや配布、炊き出しや食事を手伝う」はⅠ地区（〒176）、Ⅲ地区（〒178）でほぼ６割と多くなっている。「近所の高齢者や障害者など手助けが必要な方々の安否確認を行う」はⅢ地区（〒178）で５割を超えており、また、「子どもの世話や遊び相手をする」はⅠ地区（〒176）、Ⅱ地区（〒177）でほぼ４割と多くなっている。Ⅳ地区（〒179）は全般的に少ない傾向となっている。

（図２－４－２）

図２－４－３　災害発生時に協力できる地域の防災活動（上位10位）－性別／性・年齢別





性別にみると、男性の方が「倒壊した家屋から救出するのを手伝う」が29.4ポイント、「けが人や病人などの搬送を行う」が21.7ポイント、「近所が火事になったときに消火活動を手伝う」が18.0ポイント、「地域の防犯パトロールをする」が15.9ポイント、「壊れた家屋などの片付けを行う」が15.3ポイント高くなっている。一方、女性の方が「救援物資の仕分けや配布、炊き出しや食事を手伝う」が24.7ポイント、「子どもの世話や遊び相手をする」が18.8ポイント、「被災した方の話し相手・相談相手になる」が13.7ポイント、「避難拠点（避難所）の活動を手伝う」が8.5ポイント高くなっている。（図２－４－３）

性・年齢別にみると、「避難拠点（避難所）の活動を手伝う」、「近所の高齢者や障害者など手助けが必要な方々の安否確認を行う」は年齢による差が比較的少ないが、それ以外の項目は男女それぞれ20歳代、30歳代で多く、高い年代ほど少ない傾向となっている。

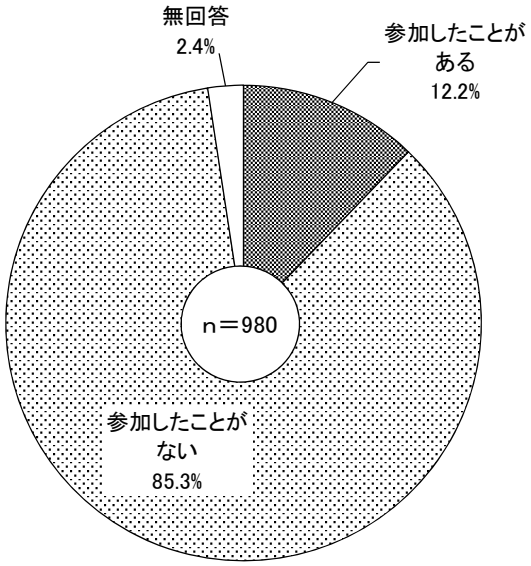
（図２－４－３）

（５）平成25年中の地域の防災訓練参加経験

◇「参加したことがある」は１割、「参加したことがない」は８割半ば

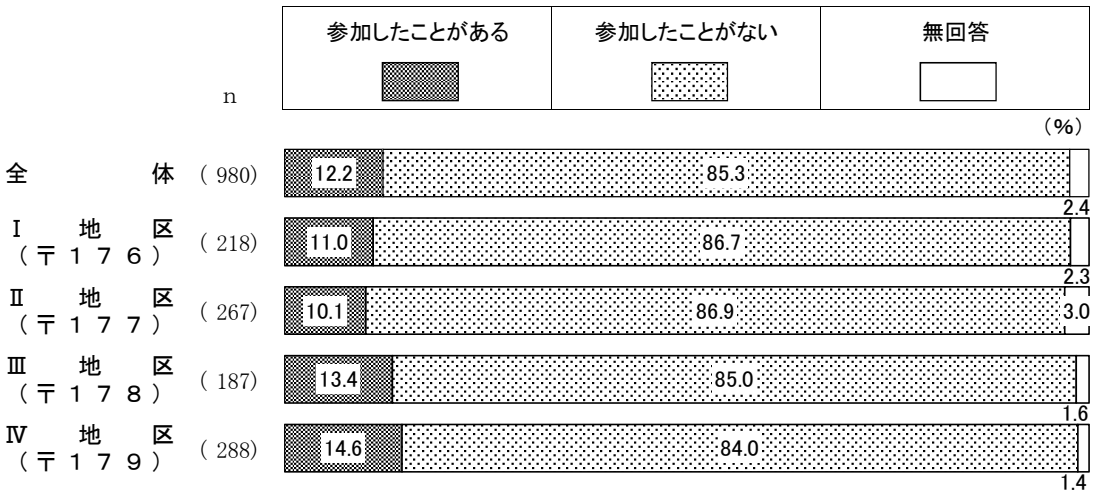
問19　あなたは、昨年の平成25年（2013年）中に、地域の防災訓練に参加したことがありますか。（○は１つ）

図２－５－１　平成25年中の地域の防災訓練参加経験



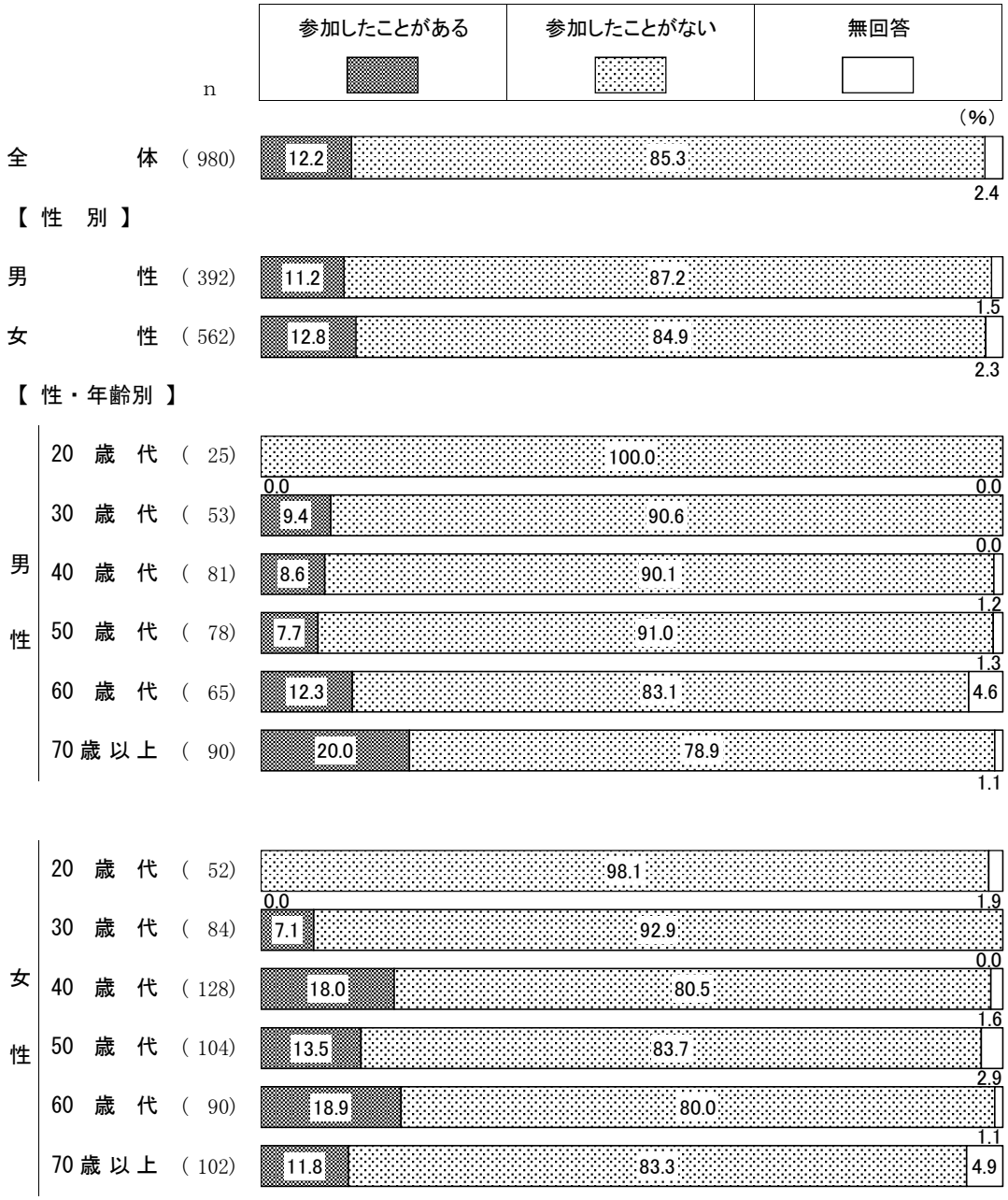
昨年の平成25年（2013年）中に地域の防災訓練の参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことがある」（12.2%）は１割近く、「参加したことがない」（85.3%）は８割半ばとなっている。（図２－５－１）

図２－５－２　平成25年中の地域の防災訓練参加経験－地区別



地区別にみると、「参加したことがある」はⅣ地区（〒179）で１割半ばとなっている。（図２－５－２）

図２－５－２　平成25年中の地域の防災訓練参加経験－性別／性・年齢別



性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

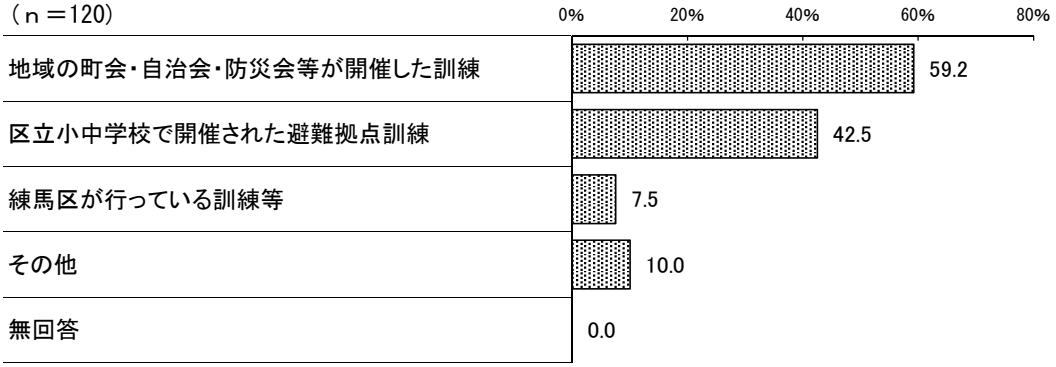
性・年齢別にみると、男性70歳以上、女性40歳代、女性60歳代でほぼ２割となっている。
（図２－５－２）

（５－１）参加経験のある訓練内容

◇「地域の町会・自治会・防災会等が開催した訓練」が６割近く

（問19で「１．参加したことがある」と答えた方へ）
問19－１　あなたが参加した訓練はどのような訓練ですか。（○はいくつでも）

図２－５－３　参加経験のある訓練内容



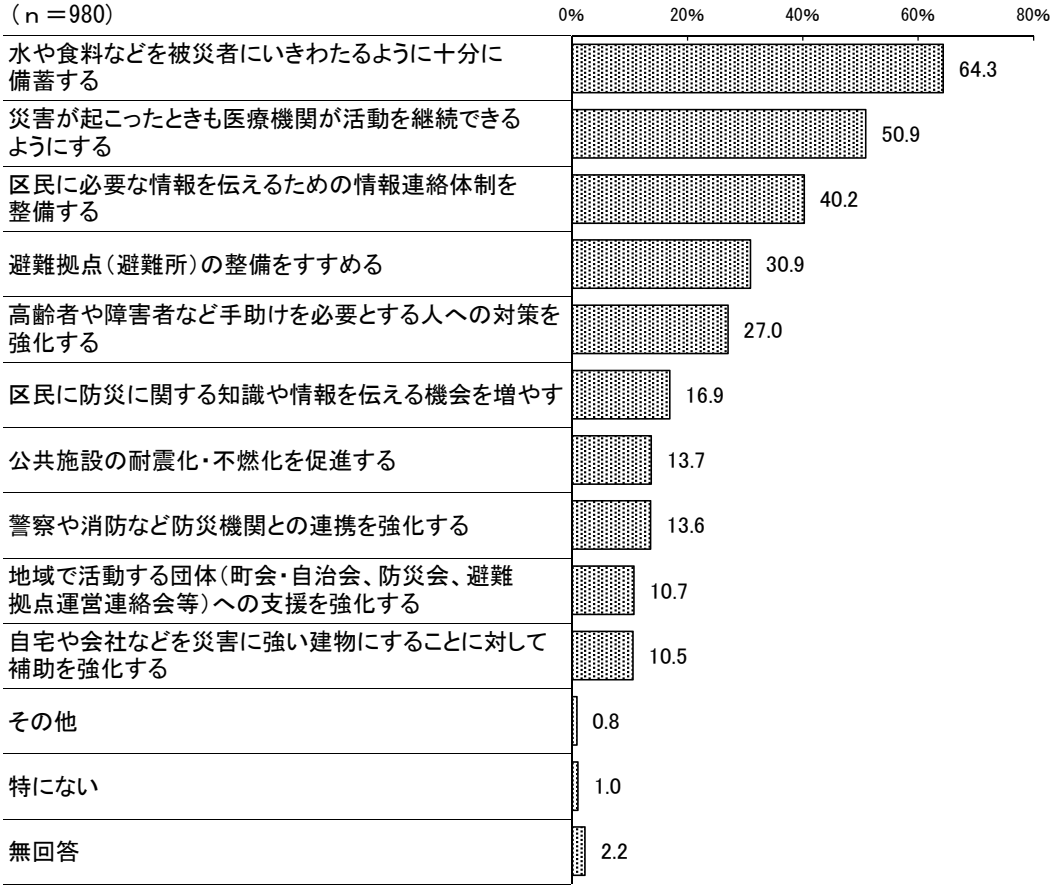
昨年の平成25年中に地域の防災訓練に「参加したことがある」と答えた方（120人）に参加経験のある訓練内容をたずねたところ、「地域の町会・自治会・防災会等が開催した訓練」（59.2％）が６割近くと最も多く、次いで「区立小中学校で開催された避難拠点訓練」（42.5％）となっている。「練馬区が行っている訓練等」（7.5％）は１割未満となっている。（図２－５－３）

（６）今後区に力を入れて取り組んでほしい防災対策

◇「水や食料などを被災者にいきわたるように十分に備蓄する」が６割半ば

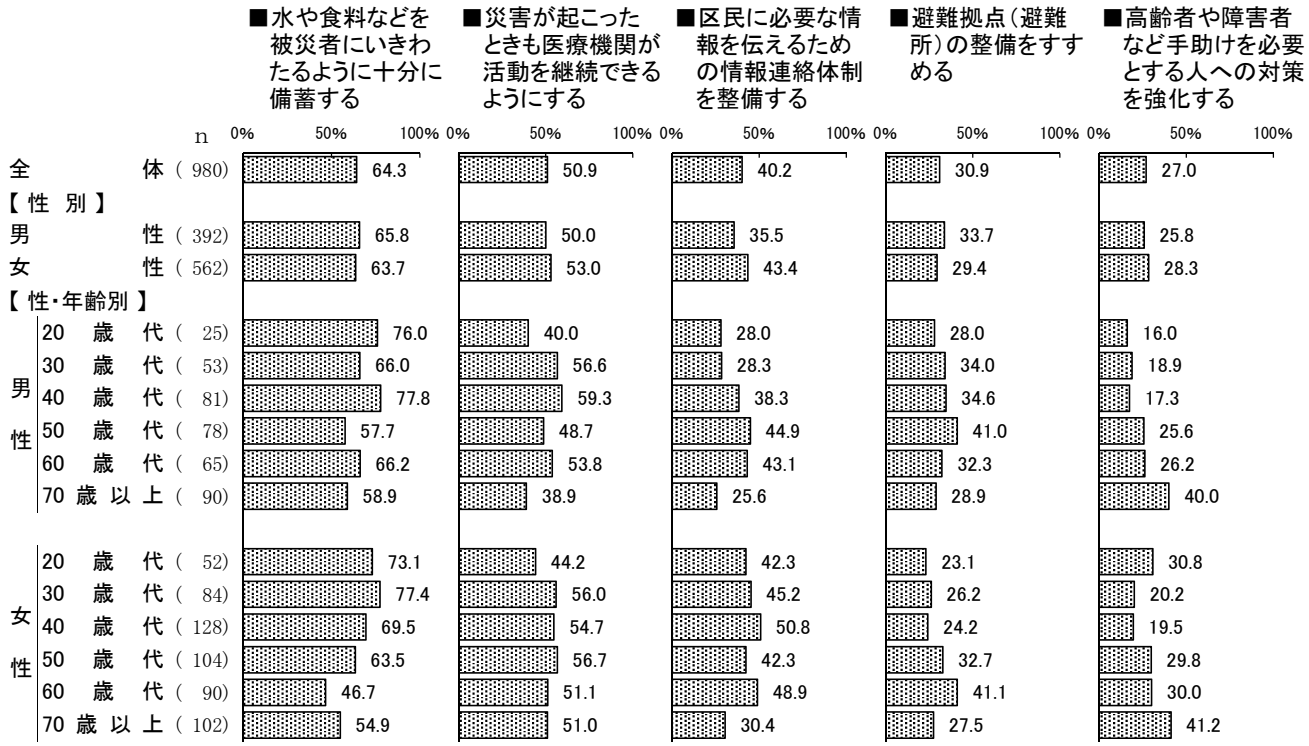
問20　今後、区に力を入れて取り組んでほしいと思う防災対策は何ですか。
次の中から特に優先してほしいことを３つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。（３つまで）

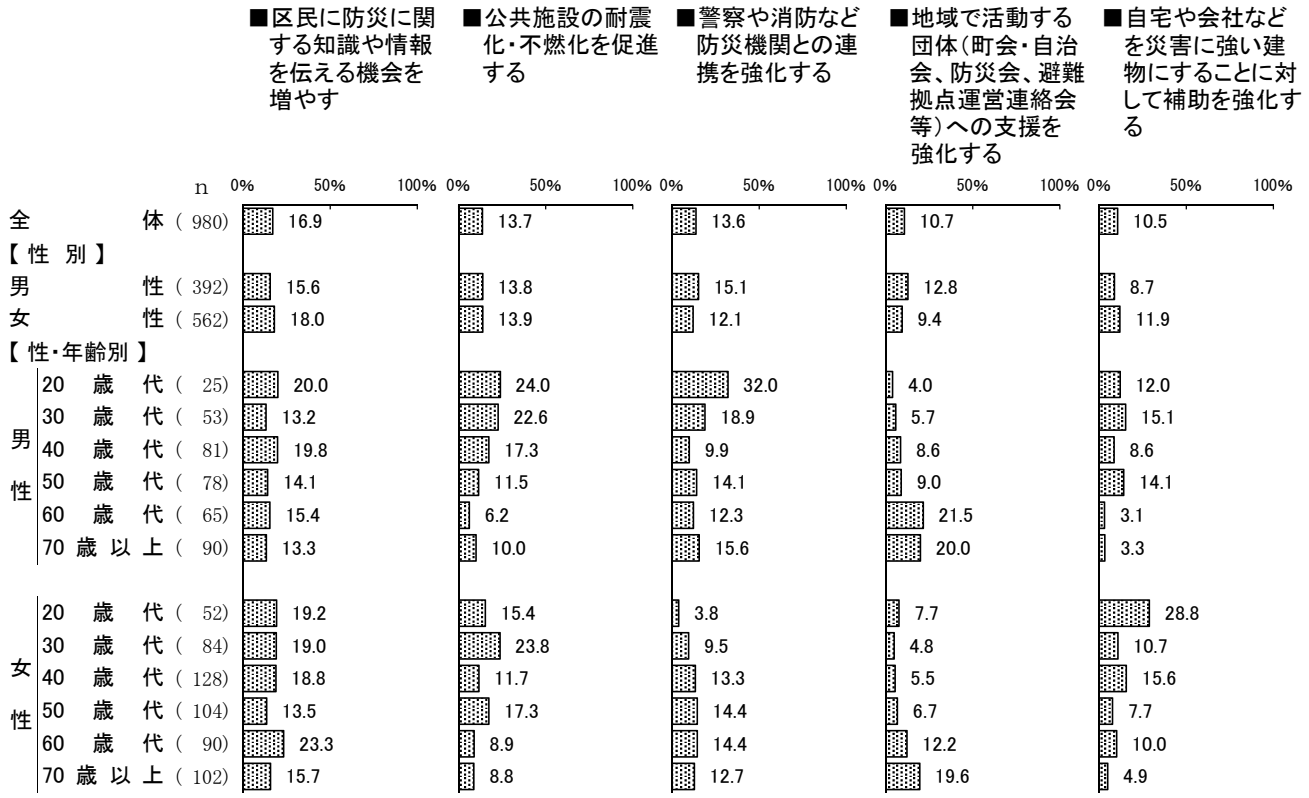
図２－６－１　今後区に力を入れて取り組んでほしい防災対策



今後、区に力を入れて取り組んでほしい防災対策を聞いたところ、「水や食料などを被災者にいきわたるように十分に備蓄する」（64.3%）が６割半ばと最も多く、「災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする」（50.9%）、「区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」（40.2%）、「避難拠点（避難所）の整備をすすめる（30.9%）などの順となっている。（図２－６－１）

図２－６－２　今後区に力を入れて取り組んでほしい防災対策（上位10位）－性別／性・年齢別





性別にみると、「区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」は女性の方が7.9ポイント高く、「避難拠点（避難所）」の整備をすすめる」は男性の方が4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「水や食料などを被災者にいきわたるように十分に備蓄する」は男女ともに低い年代ほど多く、「区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」は60歳代までの年代で男女ともに高い年代ほど多く、「高齢者や障害者など手助けを必要とする人への対策を強化する」は男女ともに高い年代ほど多い傾向となっている。（図２－６－２）